

「事前学習Ⅱ」

講師

・信太 奈美 先生

健康福祉学部 理学療法学科 准教授

・宮崎 雅也さん

社会福祉法人 日野市社会福祉協議会
日野市ボランティア・センター

・岡林 悦子 さん

公益社団法人 東京都障害者スポーツ協会
スポーツ振興部 事業推進課



障害者スポーツをパラスポーツといいます。能力差を明らかにするスポーツこそ障害を受け入れることができる場所になります。スポーツを知り、発信、応援、参加など関わることが全て支えることとなります。スポーツボランティアの関わり方は多様であり、豊かさをもたらしてくれ、国籍、障害などが異なっても、共有していくことが重要であるとのことでした。スポーツの魅力や恩恵を共有し、多様な人と楽しんで欲しいと、お話をいただきました。

■ ボランティアを始めるにあたっての意義

社会福祉協議会の目的や、日野市ボランティアセンターの活動について宮崎さんよりお話しいただきました。障害者とは？ボランティアの役割とは？意義とは？について参加している学生とslido（双方向コミュニケーションWeb）で意見交換を行いました。ボランティアの意義は人に決めてもらうものではなく、自分の中で意義を持ち活動に参加するものであり、ボランティアは楽しみながら、やりがいを持ち、笑顔ではじめることが必要とのことでした。

■ 障害者スポーツについて

障害のある人のスポーツについて岡林さんにお話しいただきました。障害者スポーツは障害によってルールを変えて、公平で安全に楽しく行う必要があります。またスポーツは障害者にとってはリハビリ効果もあります。



最後に視覚障害者体験の実技を行いました。二人一組になりひとりがアイマスクを付け誘導體験とサウンドテーブルテニス体験を行いました。最初はお互い戸惑いながらも教える難しさ、見えない怖さを体験しました。安全性が確保できることは必要ですが、正解はひとつではないので、色々なアプローチでトライすることが大事とのことでした。

■ 講師からの講評

- 本日のプログラムを体験し経験が想像を超えてくることが分かったと思う。皆さんの成長を楽しみにしている。
- いろいろな方とコミュニケーションをとり、楽しみながら知識を付け一歩を踏みだし多くの経験を積んで頂きたい。と本日の講評を頂き「事前学習Ⅱ」を終了しました。

■ 「事前学習Ⅱ」参加者の声（一部）

- ・スポーツに対する考えが変わり、接し方も考えることができた
- ・スポーツを障害者と健常者に分ける意味がないと分かった
- ・自分自身の目標がより明確になりやりたいことがはっきりした
- ・パラスポーツについて深く学ぶことができた
- ・スポーツボランティアが抱える課題について考え直すことができた
- ・体験で想像以上の不安を知り相手の立場に立つ大切さを学んだ

2022年7月16日（土）

報告

7月16日（土）南大沢キャンパス91年館多目的ホールにて、本センターが運営するスポーツボランティアプログラムの「事前学習Ⅱ」を実施しました。当日は、リーダーの学生が2名、1年目のメンバーが12名、2年目のサポーターが4名、合計18名が出席し、感染症対策をしっかりと行った上で、対面で実施しました。

「事前学習Ⅱ」では、これからの活動に向けて必要となる知識や技能を学んでいきます。講師は、障がい者スポーツをご専門とされている信太先生や、今後の活動で協働する連携団体の宮崎さん、岡林さんにご担当いただき、スポーツボランティアに関する専門的な知識・技術や今後の活動に関する情報などをお話しいただきました。

■ 昨年度のプログラム活動報告

リーダーの学生より2021年度の活動報告がありました。

- ・プログラム（活動テーマ、扱う社会性）について
- ・活動紹介（B3リーグ、ポッチャ交流会、支援学校活用促進、東京マラソンへのボランティア、サポートとして参加）
- ・今後の展望（学内イベントの開催、オンライン活用）

競技の楽しさや運営の難しさ、コロナ禍による行動制限での活動についてなどを感想を交えながら、今年度の企画の説明、プログラムの報告がありました。

■ スポーツボランティアについて

信太先生に、スポーツボランティアの特長や魅力についてお話しいただきました。ルールが曖昧であった前近代スポーツから、ルールが統一された近代スポーツに変わったことで、スポーツは国籍や言語、障害をも超えた世界共通の人類の文化であるとのことでした。

リーダー学生による昨年度までの活動報告の様子

